

そして泥臭く

齋藤友克

日本数式処理学会会長

会長に就任すると恒例として最初に発行される学会誌「数式処理」に何らかの方針などを表明することになっております。理念とか、基本方針というような高尚なものを述べる技量もありませんので近頃感じていることをご挨拶に換えたいと考えます。

日本数式処理学会は数式処理の進歩・発展・普及を図ることを目的とする組織です。当然、学問ですので立脚する理論は重要です。そこには論理的に整合であることが大前提としてあります。この立場から見ると数式処理の最上位に理論があり、それが雄大であればあるほど、かつ複雑であるほど尊ばれる風潮があります。この点から見ると数式処理は、数学そのもととなんら異なりません。しかし、数式処理は数学とは異なる評価基準が存在すると考えます。数式処理は、システムが存在してこそその数式処理です。理論は理論として尊ばれる必要がありますが、システムの構築やその利用という部分は重要な要素です。

システムは地道に努力を積み重ねるしか道はありません。格好良くもなくひたすら手を動かし作り続けるしかないものです。この地道な努力があればこそ新しい理論も意味を持ちます。今回掲載されている奨励賞論文も理論を作り、それを実装して実証するという作業の上での成果です。

実装は、理論の上に成り立ちます。あとは根気です。数式処理の数学と異なる点がここにあります。つまり動くものを作ることが数式処理には欠かせません。もちろん理論的なものが必要ないとか重要でないなどと言う意味ではありません。理論がなければ、たとえシステムの返してくる結果が正しいものであっても数式処理は砂上の楼閣になってしまいます。

システムが存在することが数式処理の数式処理たる所以と考えます。このシステムの構築力が近年低下しているように見えるのは、私の見当違いでしょうか。システムを作ることは、年齢に関わらないかえって若いの方が向いている部分です。ぜひこの点を若い人をお願いしたいと考えます。一方古くからの方には、お弟子さんと競争してまだ若い者には負けないと豪語している師匠も多数存在しますから、そちらの方ではそれほど心配することもないのかも知れません。

日本数式処理学会は、手を動かすことを評価する学会でありたいと考えます。

年齢を経ると手を動かすことが億劫になり段々高尚に見える方向へ行くことが一般的です。自戒をこめて最後まで手を動かし続けることを私は選択したいと考えます。